

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking patterns and risk of type 2 diabetes mellitus among younger women. 若年女性における飲酒パターンと 2 型糖尿病のリスク	
執筆者	
Wannamethee SG, Camargo CA Jr, Manson JE, Willett WC, Rimm EB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Intern Med, 2003; 163 (11): 1329-36.	
キーワード	
飲酒頻度、アルコールの種類、II型糖尿病	
要 旨	
<p>目的：飲酒パターンと 2 型糖尿病のリスクとの関連性について、1) 生活習慣要因の関わり 2) アルコール飲料の種類の影響 3) 飲酒頻度の影響 に焦点をあてて検討を行った。</p> <p>方法：The Nurses' Health Study II の参加者のうち、冠動脈疾患、脳卒中、悪性腫瘍、糖尿病の既往の無い 25 歳から 42 歳までの女性 109,690 名を対象として前向き調査を行った。対象者は 1989 年に生活習慣・病歴についての詳細な質問に回答した。10 年間の追跡の後、2 型糖尿病を発症したのは 935 例であった。</p> <p>結果：BMI、喫煙、身体活動、糖尿病家族歴を含む複数の交絡因子での調節後に解析を行ったところ、アルコール消費と 2 型糖尿病の発症リスクには非線形な関係を認めた(quadratic trend $P=0.003$)。非飲酒者と比べた場合、一日あたりのアルコール摂取量が 0.1-4.9g, 5.0-14.9g, 15.0-29.9g, 30g 以上の飲酒者では、相対危険度がそれぞれ 0.8, 0.67, 0.42, 0.78 であった。調整因子に食餌因子を加えて解析を行った場合でもほとんど変わりはなかった。軽～中等量のワインやビールを飲むと答えた女性において糖尿病発症リスクとの負の相関がもっともはっきりと認められた。蒸留酒を 30g/日以上飲むと答えた女性では、蒸留酒は飲まないで答えた女性に比べて糖尿病発症の相対危険度は有意に高く、2.5 倍であった。</p> <p>結論：軽～中等量のアルコール摂取は、25-42 歳の女性における 2 型糖尿病の発症リスクの低さに関連しているかもしれないが、この効果は高等量の飲酒レベルでは期待できないと思われる。</p>	